

一橋大学入試対策問題集について

「一橋入試は問題が特殊で対策が難しい……なのにきちんとした対策問題集もないし、予想問題も少ない……」そんな悩みを抱える一橋志望者は多いはずです。現に私たちもそういった悩みを抱えていました。もう自分たちと同じように悩んで欲しくない、そんな気持ちから生まれたのがこの「一橋大学入試対策問題集」です。受験を突破した一橋大生ならではの解説、受験勉強を経て蓄積したノウハウ、傾向に即したオリジナル問題、本番を意識した模擬試験、合格者の成績データやおすすめ参考書など、一橋志望者が欲しいものは全て盛り込んだつもりです。この問題集を一橋合格のためのバイブルとして使い倒してください。「この問題集のおかげで合格しました！」そんな喜ばしい声を待っています。受験勉強頑張ってください。では、一橋大学のキャンパスでお会いしましょう。

2017年10月
一橋大学入試研究会一同

●テキストの構成●

本「合格体験記」は普通の体験記とは一味異なり、志望学部始まり併願校やセンター本番の得点や2次試験本番の得点、さらには各科目の勉強法にいたるまで、一橋合格のためのエッセンスのつまった、バイブルと呼ぶべきものに仕上がっております。特に学部ごとに異なった戦略をもって受験に臨んでいる様子が見て取れるなど、非常に参考になると思います。勉強法を参考にするもよし、そうか、このレベルでいいのか、と安心するもよし、モチベーションを上げる手段としてもよし、使い方はあなた次第です。受験はただがむしゃらに勉強するだけでは高い効果を上げられません。その前に確固たる戦略が必要です。本体験記を熟読し、あなたの合格のための戦略策定の参考にしてください。ただ、一つ謝らなければならないのは、集めることができた体験記が不思議と商学部と社会学部に異常に偏ってしまったことです。これは本当に申し訳ないです。ただ、商学部と経済学部、社会学部と法学部はそれぞれ配点が似通っており、そこまで取るべき戦略に差はないと思いますので、参考にすることができると思います。受験は情報戦でもあります！しっかり情報を仕入れ戦略をたて、合格を勝ち取りましょう！

●目次●

商学部

現役	-----	4
浪人	-----	16

経済学部

現役	-----	37
----	-------	----

法学部

現役	-----	40
----	-------	----

社会学部

現役	-----	44
浪人	-----	59

●表の見方●

○体験記によって、上記の情報について開示されていない項目がある場合がございます。
あらかじめご了承ください。

●商学部 現役 男子 1 ●

○基本事項

得意科目：英語
不得意科目：古典
出身高校：神奈川県私立高校
塾・予備校：SAPIX(中学受験) 平岡塾(中1～) 東進(主に自主室利用、高2～)
受験勉強開始時期：高2秋
オープン判定：河合A 駿台B
併願校：慶應/商 /A方式 ○慶應/経 済/A方式 ○
おすすめ参考書、授業：一対一対応の演習(数学) 平岡塾の授業全て(英語)

○センター得点

	現役
英語	200
リスニング	50
数学IA	84
数学IIB	76
国語	164
化学基礎	46
地学基礎	38
世界史B	87
倫理・政経B	80
合計	777

③ ○勉強時間配分

4月～7月
英語 20%、**数学 50%**、国語 10%、世界史 10%、その他 10%
夏休み
英語 20%、**数学 40%**、国語 10%、世界史 20%、その他 10%
9月～12月
英語 20%、**数学 30%**、国語 10%、**世界史 30%**、その他 10%
12月～センター
英語 10%、数学 20%、国語 10%、**世界史 30%**、その他 30%
センター～二次
英語 20%、**数学 20%**、国語 20%、世界史 20%、その他 20%

○二次試験得点予想

	現役
英語	192/250
数学	110/250
国語	70/125
ビジネス基礎	60/125
センター	216/250
合計	648/1000

○平均勉強時間と睡眠時間

	勉強時間	睡眠時間
4月～7月	8時間	6時間
夏休み	13時間	6時間
9月～12月	8時間	6時間
12月～2月	12時間	6時間

④

⑤

- ①協力者の受験学科、現役 / 浪人、性別。
- ②得意科目や併願校などの、協力者の基本的な情報が記載されています。オススメの参考書や授業も載っているので要チェック！
- ③協力者の勉強時間配分を4、5つの時期ごとに見ることができます。学習計画を立てる時の参考にしてみましょう。(最も割合の高い科目は太字で記載しています。)
- ④協力者のセンターの点数と二次試験の予想点数が記載されています。目標点を設定する時の目安にしてみましょう。
- ⑤勉強はもちろん大切ですが、睡眠も重要です。睡眠もしっかり取り、効率よく勉強しましょう！

●商学部 現役 男子 1 ●

○基本事項

得意科目：英語

不得意科目：古典

出身高校：神奈川県私立高校

塾・予備校：SAPIX(中学受験) 平岡塾(中1～) 東進(主に自主室利用、高2～)

受験勉強開始時期：高2秋

オープン判定：河合 A 駿台 B

併願校：慶應/商/ A方式 ○慶應/経済/ A方式 ○

おすすめ参考書、授業：一対一対応の演習(数学) 平岡塾の授業全て(英語)

○センター得点

	現役
英語	200
リスニング	50
数学 IA	84
数学 IIB	76
国語	164
化学基礎	46
地学基礎	38
世界史 B	87
倫理・政経 B	80
合計	777

○勉強時間配分

4月～7月

英語 20%、数学 50%、国語 10%、世界史 10%、その他 10%

夏休み

英語 20%、数学 40%、国語 10%、世界史 20%、その他 10%

9月～12月

英語 20%、数学 30%、国語 10%、世界史 30%、その他 10%

12月～センター

英語 10%、数学 20%、国語 10%、世界史 30%、その他 30%

センター～二次

英語 20%、数学 20%、国語 20%、世界史 20%、その他 20%

○二次試験得点予想

	現役
英語	192/250
数学	110/250
国語	70/125
ビジネス基礎	60/125
センター	216/250
合計	648/1000

○平均勉強時間と睡眠時間

	勉強時間	睡眠時間
4月～7月	8時間	6時間
夏休み	13時間	6時間
9月～12月	8時間	6時間
12月～2月	12時間	6時間

○科目別勉強法

英語

英語は昔から塾に通っていたこともあり得意科目でした。高2の時には一橋の過去問でも合格点を取れるようにはなっていました。ですが、英語はサボったらすぐ成績が落ちてしまう科目だと思い、毎日必ず触れるようにはしました。具体的に何を行ったのかを説明します。高3になるまではひたすら単語を詰めました。システム英単語(駿台文庫)を何周もして基礎力を固めました。また英文解釈をしつこく行いました。塾で課された宿題とは別に、「英文読解の透視図(研究者)」などの市販の英文解釈の参考書で演習量を増やしました。高3になってからはそれに加えて熟語の強化のために熟語帳を買って何周もしました。「大学入試受かる英熟語 ソクラテス 1088 (大学受験Vブック新書)」というマイナーな熟語帳でしたが、何周もやったことは私大の長文などで問われる穴埋め式の熟語問題に対応する力を身につけられたと思います。一橋のために特別に行ったこととしてはディクテーションの練習です。これは夏休み前から自分で「速読英単語 上級編(Z会)」のCDを使って、自分でディクテーションの問題を作って練習を重ねました。おかげで一橋模試や本番ではほぼノーミスで聴き取れるまでになりました。ただこれ以外特に変わったことは行わず、学校と塾と自分の勉強のバランスを保ちながら勉強を最後まで続けたことが合格の秘訣だと思っています。

数学

数学は高2の途中まで本当に苦手科目で、それ以上に苦手意識を持ち続けていた科目でした。ただ自分は商学部に行きたかったので、配点の高い数学をやらざるをえないことを認識していました。(高2の時から配点などを意識することはこういう風に役に立ちます。)なので受験勉強を始める時に数学を本気で取り組むと決心しました。文系数学はひらめきというよりむしろ標準問題の組み合わせだと思っていたので、基礎から標準レベルの問題の演習をひたすらに行いました。具体的には「一対一対応の演習(東京出版)」の1A2Bを高2の秋から高3の夏前にかけてそれぞれ3周しました。これにより、ある程度のレベルの問題なら見ただけで解法が浮かぶまでに成長することができました。高3の夏からはそれに加えて一橋の過去問を分野別に取り組むようになりました。夏の終わりには実際に数年分を二時間で解くようにして秋の冠模試に備えるようにしました。秋から冬にかけては「文系数学の良問プラチカ(河合出版)」で東大や京大の骨のある典型問題に触れて解法のストックを増やすとともに、「一橋大学への数学(駿台出版)」で演習を積みました。冬から受験本番までは「一橋大学数学入試問題50年(聖文新社)」という一橋数学の辞書のような問題集で、後期試験の問題にも手を出して(10年前くらいの後期試験の焼き直しのような問題が前期試験で出たりします!)ひたすら演習を重ねました。以上のようにタラタラと数学の勉強法を書いてきましたが、一つ言えることは、やはり圧倒的な演習量が自分の数学

の自信につながったのだと思います。(本番はそこまで良くなかったのですが笑)

国語

国語は商学部の配点的にも自分の受験校的にもあまり重要な科目ではなかったので、基礎力をつけるというよりもむしろセンター国語と一橋国語に特化した勉強をしました。具体的には、センター前はひたすら古文漢文のマーク式の問題を解き、一橋の国語を10年分解きました。特に一橋の要約問題は高得点が狙える場所であるので何回も解き直してその都度添削してもらうようにしました。(自分の場合は東進の過去問演習講座というシステムを使って)とにかく国語は最小限の努力で最大の結果が出るように努めました。

世界史

一橋の世界史は特徴的な出題傾向があるので、まずはそれを知ることが努めました。それをもとに高三の夏までは通史とそれの復習を学校のテキストを使って行いました。高三の夏には「世界史B 一問一答(東進ボックス)」を使って基礎知識を詰め込みました。秋には学校で通史が終わったのでその復習と、テーマ別の過去問演習に取り組みました。冬にはセンターの過去問を「センター試験への道 世界史」で分野別にひたすら解きこみました。センター後から本番まではまた過去問演習に戻り、それに加えて「世界史論述練習帳 new(中谷臣)」の基本論述60字の解答を覚えるようにしました。また、過去問を年度ごとに取り組むのは結局入試本番までほとんど行いませんでした。その代わりに、1問に1時間以上の時間をかけて必要な時は参考書を見ながら納得できる解答を描くトレーニングを続けました。ちなみに商学部は社会科目の配点が高々125点で数学や英語の半分しかないので、商学部志望者は世界史にあまりはまりすぎないように時間に制限をかけて行うことをオススメします。

○受験生へのメッセージ、アドバイス

受験は何が起こるか分かりません。現に世界史選択だった自分は本番の試験で世界史に全く歯が立たずビジネス基礎を解くという、今思うと非常にぶっ飛んだことをやってしまいました。数学では、試験10分前に会場の隣の女の子がデータの分析にまつわる公式を確認し出したのを見て、その場で慌ててWikipediaで自分も公式を確認していたらそれがたまたま出てくるというラッキーもありました。このように、とにかく受験は予測不能で運が大きい要素を占めます。だから、どんなに事態が自分に不利な方に傾いたとしても、それでも合格できるような圧倒的な実力をつけて欲しいです。頑張ってください！